

群馬県 グループホームくりの木(ユニットくりの木・くりの木ヒルズ) 地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人では出来ないことも誰かの助けを借りれば出来る。」 「笑顔で敬う。」をホームの理念とし、介護の基本としている。		手をかしすぎない介護の実践。日々、笑顔で接する。
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	いつでも目にとまるように、ホーム内に掲示し、職員全員が理念を理解し実践出来るよう取り組んでいる。		ミーティング時に全員で唱える。介護のマンネリ時には、いつも理念に戻り介護にあたるよう職員全員で心がけている。
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時に家族に説明し、ホーム便りにも載せている。		利用者が理念を書いた色紙が目にとまるよう掲示しており、家族や地域の人々がホーム訪問時にそれとなく色紙を話題にする。
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の人が野菜や花の苗を届けてくれるため、親しみが沸き気軽に挨拶が出来る。	○	ホームの行事への参加を呼びかけている。
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区長寿会の方々が訪問してくださったり、地域の道普請に参加。近くの児童が遊び道具(折り紙や金魚すくい、ゲートボール等)持って遊びに来る。	○	地区長寿会の方々との交流を図る。(手芸等、指導をお願いします。)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設長が地域の民生委員を務め、地域のお年寄りとの交流をはかっている。		冬の道路の雪かきなどを積極的にし、地区長寿会の役員会に施設の使用を提案している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を職員全体で理解出来るよう話し合い取り組んでいる。		評価結果を参考に職員で改善に取り組み、より良いホームを目指している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・職員の現状説明をし、又ホームの食事を食べて頂いたり、和やかな雰囲気の中からも様々な意見を頂いている。		運営推進会議での食事の感想、職員の利用者、外部者への接し方等の意見を職員に伝え、より良いホーム作りに役立っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	時々伺い相談等をしている。		担当課課長様にホームの運営委員をお願いし、委員会時には施設を見て頂きアドバイスを頂いている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度を認識している、必要時には充分対応出来る。	○	職員も詳しく制度を勉強する機会を作り、必要な時に支援出来る体制を作る。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、注意をしている。		利用者の体の変化はすぐに職員に確認し、原因を究明している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を詳しく説明し了解して頂いている。	折に触れホームの考え方や状態変化時の対応等はなしている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者がつねに自由に発言出来る生活の場作りを心がけ、行動、言動によりさぐり対応している。	利用者の意見、希望を職員間で話し、検討している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	お便りで、1人1人の状態をお知らせし、ご家族様の訪問時には利用者の生活状況を話したり、金銭出納帳を確認して頂き、サインを頂いている。	毎月のお便りにおいてお知らせしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時には家族の表情などから、必ず話を聞く時間を作っている。	普段から家族とのコミュニケーションを、はかり気楽に話せる環境作りをしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員1人1人が、意見や提案を言い易いよう職員主導のミーティングを開いている。	日頃から職員の話の聞いたり、ミーティング時にも意見・要望を聴き運営に反映している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	余裕のあるシフトにしてあり、急な休みのときにも十分な対応ができています	施設長は余裕をもったシフトにしてあり、緊急時に応じた体制がとれている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットごとに固定の職員を配置し、固定の職員以外は各ユニットを時々交代し馴染みの関係が出来るよう対応している。	ユニットどうしの交流が盛んなので、職員全体が馴染めるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格者へはヘルパー研修を勧め、実践している。また有資格者は基礎研修や実践者研修受講の機会を作っている。	研修報告書及びミーティング時に研修内容を報告してもらっている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会での管理者研修、交換研修に積極的に参加している。	今後とも相互訪問等の機会を増やし、質の向上を目指す。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦の場を作り、気分転換を図る機会を設けている。	休憩時間をそれぞれ自由に過ごせるよう配慮をし、職員同士の和やかな関係づくりに努め、職員の親睦の機会をつくっている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は毎日ホームに行くため現場の状況が把握できている。職員個々の個性を認め、提案を受け入れながら、勤務状況を把握している。	職員の提案・希望を取り入れている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人から生活状況などゆっくと話をし、本人の思いを受けとめ、気兼ねなく相談できる関係を築いている。	本人の話したいことを、本人と同じ目線で気長に聴くようにしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまで家族が関わってきた経緯をゆっくと聴き、家族の要望を受け止めるように努めている。	家族の訪問時には、気軽にこちらから話しかけて必ず話をするようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現在の状況、家族の要望を聴き対応している。		本人・家族の状況を聴き、他のサービスも紹介している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が慣れないホームの中での様子を伺いながら、その方に合った居場所・友達作りを支援をしていく。	○	入居の前に慣れるようホームに遊びにきてもらい少しでも顔なじみになるよう支援する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が元気な時はみんなで喜び、具合の悪い人がいるとみんなで心配し、自然にホームが一体化している。		人生の先輩という意識をつねに持ち、昔のことを聴いたり、出来ないことを手伝っているという気持ちを大事に支え合っている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の言葉や行動・職員の思いを家族に伝えることで、本人を支えていく協力関係を築いている。		職員は家族の思いを受け止めながら、日々の暮らしの出来事や情報の共有に努めながら支援している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームの行事等に誘ったり、病院の付き添いや外出を働きかけている。		行事にお誘いしたり、ホーム便り、年賀状、暑中見舞いなどで関係が途切れないよう心がけている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブをしながら自分の家に行ったり、昔から利用している美容院に行き、出来るだけ馴染みの関係を続けている。		家族にも支援の要請をお願いしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの話を聞いたり相談にのったり、皆で楽しく過ごせるよう職員が調整役となっている。また利用者同志の関連性を職員が把握し、より良い関係作りに努めている。		毎日のお茶や食事の時間に職員も一緒に会話に加わる。又利用者の役割り活動を通して利用者同志の関係がうまくいくよう働きかけをする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	時々、家族に連絡し近況を聞いたり、転居先を訪ねたりしている。		退所した家族にもホーム便りなどで、近況を伝える。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中でこえかけをし、表情や発する言葉によりその人の思いを把握する。意思の疎通の困難な方には同居の家族・各関係者から情報を得ている。		利用者の言葉や言葉かけしづらい思いを日々の行動・表情からくみとり把握している。意思疎通が困難な方でも表情をみながらゆっくり会話することにより、その人の思いを把握する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご本人・家族・関係者より生育歴・生活歴などの情報を得る。入居後も必要に応じ家族等連絡をとっている。		入居時の情報のみでは把握できないこともあり、折りにふれ本人との会話を大切にする。又家族とのより良いコミュニケーションをとることにより一層の情報が得られる。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の望むこと、望まないこと、帰宅要求などこどうや表情・言葉によりその人全体の把握に努める。		本人の得意なこと、好きなこと、苦手なこと等把握する。個々の体調・体力に合わせ無理なくとけ込んでいただけるよう環境にも配慮する。
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを含め職員全体でミーティングを行い、意見交換やケアカンファレンスを行っている。		一人ひとりに添った、更に個別の具体的な計画を立てるよう取り組む。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員から情報を確認し、家族や本人の要望をききながら作成している。		状態が変化した際には検討見直しをする。又職員の記録する状況・状態の変化により見直しをおこなっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ノートがあり利用者の感情・表情・言葉・仕草・行動など記録し情報を共有している。		健康チェック表のファイルに食事・服薬・体重・排泄などの身体状況を記録しているので変化に気づくことができる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に柔軟に応じている。		いつでも要望に応じている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して暮らせるよう地域の人たちとの交流を行っている。		いつでも訪問者の受け入れ体制が出来ている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネや事業者も訪れ、情報交換をしている。		本人の意向に添うよう支援している。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要時には相談している。	○	権利擁護・成年後見制度等、地域包括支援センターと協力して進めていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。		家族と相談し通院介助を行ったり、訪問診療もあり、複数の医療機関と関係を密にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する診断や治療。対処方法等、医療の対応が利用者個々にできている。		地域において認知症の医療に熱心で、家族や職員の話をよくきき、適切な指示や助言をしてくれる医師がいる。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の体調の変化に伴い、判断に困ったとき気軽に相談出来る看護師がいる。	○	介護職員と看護職員が連携をとれるよう、医療連携体制を考えている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院による機能低下を最小限に抑えるよう、出来る限りの早期退院に対応できるようにしている。		入院時には本人の普段の生活状況を伝え、家族とも情報交換しながら退院支援に結びつけている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	出来る限り慣れたところで生活して頂けるよう、家族や主治医と相談している。又、職員もホームの方針を理解している。		家族、医師、ケア職員で話し合いを重ね、状態の変化・家族や本人の思いに注意を払い、支援につなげている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の利用者が段階に応じ、どこで、どういう介護を受けるのがいいかつねにチームで繰り返し検討をしている。		医師や看護師との連携を深め、職員は今後の変化に備え、検討している。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームでの生活状況を含め、詳しく情報を伝えている。		住み替えのダメージを防ぐための情報交換を綿密に重ね、移動後の支援も怠らない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念を大切に、職員一人ひとりが注意をしている。	馴れ合いにならないよう注意している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人に話しかけて希望を聴きながら生活出来るようにしている。	本人の意見・希望を優先している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の表情、状態を見極めて、後回しにしたがり無理強いしない。	本人のペースを大切に、本人の希望に添って支援している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類はいつも清潔にし、持っているものの中でバランスを整えている。定期的に美容院に行っている。	洋服がきちんと整えられない方が目に留まればすぐに直し、常に気をくばっている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備で盛りつけが自分の仕事とし楽しみにしている方や片づけを手伝ってくれる。	時々、趣向を変えて全員でバイキングにし、目で楽しんだり自分の好きなものを自分でとって食べる楽しみを作っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	十分に希望が聞き入れられるような職員体制をとっている。	皆で広告を見たり、テレビを観て、希望を云えばそれに添い作ったりしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄のパターンや状況を見極めて、トイレ誘導をしている。		時間をみて誘導している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を聞き、無理強いしない。		一人ひとりにあわせてタイミングを大事にしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の習慣・状態により、対応し支援している。		本人の状況を理解したうえで、その方にとって支援をしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の用意・片付け、掃除、洗濯物干し・取り込み、草むしりなどのお手伝い、塗り絵や絵を描いたり、広告で箱を作り訪問者にあげる等、一人ひとりにあつた支援をしている。		生活習慣・履歴などから、職員は一人ひとりにあつた楽しみ事などを把握するよう努めている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人にとってお金を所持出来ない不安を十分に理解し、買い物時等使えるよう配慮している。		一人ひとりの状況に応じ対応している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は散歩に出かけたり、買い物に行ったり、自分の家を見たいといえは出かけたり、可能な限り希望に添っている。		本人の希望に応じ、外出の機会を増やすようにしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1月に1回は外食(希望を聞く)に出かける機会を設け、ドライブ・買い物等に外出している。		春のお花見、秋には紅葉狩りと、全員でのバス旅行実施している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい時や本人が家族の声を聞いたような時はいつでも電話をかけて対応している。		本人の意志を大事にし希望に添っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員とも顔なじみになり気兼ねのない会話が出来、居間・食堂空間が広くとってあり、訪問者が気兼ねなく好きな所でくつろげる。		遠慮なくお茶を一緒に飲める雰囲気の間になっている。
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時に職員間で十分な議論をし、身体拘束ゼロへの理解を深めている。		やむをえない場合は、早くなくすケアを試みている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が常に見守りをし、利用者が外出したような時は一緒について行く。		玄関には植木・花があり、職員と水やりをするため出入りをするので、利用者は鍵の意識をもっていない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者の居場所を常に把握し、見守っている。		時には当直室や居間に布団を敷き休んでいただき安全に配慮している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況の変化に応じて、注意の必要性を見極めて対応している。		危険性の高いものなどは利用者了解のもとホームで保管し、必要時に職員が見守りながら使用。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態を職員間で話し合い、事故を未然に防ぐよう検討している。		見守りの介護に心がけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	避難訓練時に消防署職員により救急時の研修を受け、緊急時に備えている。又ホーム内においてもケアマネ等により訓練をしている。		さらに訓練回数を増やす。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回行う消火・避難訓練により体験し、災害時対応出来るようにし職員ミーティング時にも時折確認している。	○	避難訓練時、近隣の方にも消防署職員による講習を一緒に受けて頂くようこえかけをする。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	状況の変化により家族に説明、話し合いを行っている。		普段からさりげなく話している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	引き継ぎ、メモにより情報を共有している。		体調の変化、異変を見落とさず、すぐに対応している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの症状の変化を見落とさずに、変化の見た時には、主治医に即相談し、対応している。		薬剤情報は常に目を通し、細心の注意を払い対応している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排便チェックをもとに運動や食事に注意して対応している。		排便チェック表でいつも確認し対応している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きを徹底し、状態に応じ治療を勧める。		毎食後、口腔ケアを実施している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量・水分摂取量はつねに把握し、その人の状態に合わせた支援をしている。	健康チェック表でつねに食事量などを把握して支援・対応している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し予防に努めている。	感染症を防ぐため室内・本人の清潔を保ち、予防注射も実施している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは定期的に漂白し、残った食材は常に点検している。台所はつねに清潔を保ち衛生管理に注意している。	つねに新鮮な食材を使い、残さないように注意している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりは植木や花を植えたり、またベンチを置き親しみやすいようにしている。	玄関に花やベンチがあり、生活感を感じ入りやすくなっている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間においても一人ひとりの居場所が出来、日差しや音など利用者がそのつど調節したり、季節にあった花や童話集などで雰囲気作りをしている。	いつも居心地の良い居間作りを心がけている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関・廊下・階段下などに長椅子を配置、ベランダにもベンチを置きひなたぼっこ等、仲の良い人とくつろげるようになっている。	自然に自分の居場所が出来、自由にくつろいでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談し、本人の馴染みの物を持ってきてもらう。		入居後も家族に話し、時に応じアルバム等持ってきてもらっている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者が気持ちよくいられ、又訪問者も入った時に清潔なイメージを持っていただくようにつねに気を配っている。		清潔で明るいホーム作りをめざしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーで、通路には手摺りを設置。1つのトイレは廊下から手摺りづたいにすぐ座れるようになっている。		そのとき、その人にあわせ安全に生活できるよう工夫している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりを理解し、発揮出来る力を生かせるように支援している。		本人が混乱しそうな時は心配りをし、さりげなく支援している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや玄関にはベンチを置き、日光浴をしたり、お茶の時間を過ごしたり気分を変えられる工夫をしている。		居間からすぐにベランダに出られるようになっているため頻繁に活用している。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然の笑顔・自然の生活。